

●●●● 病院ニュース ●●●●

しろうさぎ



島根大学
SHIMANE UNIVERSITY

2012.1.1
第27号



小林病院長年頭の挨拶

- 大田総合医育成センター設置
- 東日本大震災被災地視察報告
- 病棟等改修その他工事進捗状況
- 病棟移転スケジュールについて
- H24年2月からHCUを増床

- 目次 -

年頭の挨拶 2012	1P
島根大学医学部大田総合医育成センター開所式 が行なわれました	1～2P
東日本大震災被災地視察報告	2P
病棟等改修その他工事進捗状況	3P
病院移転スケジュールについて	4～5P
H24年2月からHCUが増床されます	5P

新任のご挨拶	6P
総合医療学講座の役割	6～7P
大田総合医育成センター設置について	7～8P
データセンターの役割と利用について	8P
CTガイド経皮的胃瘻(PG)、USガイド下経皮経食道胃管挿入術 (PTEG)の紹介	9P
光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助(先進医療)	9P
iPadの手術現場での利用について	10P
経皮的肝がんラジオ波焼灼療法について	11P
オーラルメディスン外来の診療開始について	11～12P

クリニカルパスシリーズ ～SASパス～	12P
津和野共存病院と雲南市立病院に「ミュー太」を導入	13P
救急蘇生プログラムの紹介	13～14P
平成23年度ホームカミングデー(出雲キャンパス)を開催	14P
第8回島根大学医学部附属病院関連病院長会議を開催	14P
防災シンポジウムを開催	15P
医の倫理委員会主催講演会を開催しました	15P
「大学病院人材養成機能強化事業ステップアップ研修会」を開催しました	16P
病院医学教育研究成果報告会を開催しました	17～18P

ワークライフバランス支援室活動報告 - 大学病院人材養成機能強化 事業に伴う「女性医師のキャリアアップ支援に係る交流会」 -	18P
中国地区DMAT実動訓練に本院DMATが参加	19P
婦人科 中山講師が日本医師会 医学研究奨励賞を受賞	19P
ガイジン部隊とのオンセン珍体験	20P
2011夢フェスタinいずも“オロチ踊り”に島根大学医学部チームが参加	21P
「世界糖尿病デー」に花火を打ち上げました	22P
島根県病院対抗バレーボール大会に参加して	23P
ボランティア活動について	23～24P
病院運営委員会の報告	24P
研修会・講演会・学会等のお知らせ	25P

理念

地域医療と先進医療が調和する大学病院

目標

患者さんの視点に立った医療の提供
安全・安心で満足度の高い医療の実践
人間性豊かな思いやりのある医療人の育成
地域医療人とのネットワークを重視した医療の展開
地域社会に還元できる臨床研究の推進



病院長 小林 祥泰

明けましておめでとうございます。

昨年は当院のシンボルマークの出雲神話の因幡の白兔の兎年で新病棟完成と共に附属病院の新しい時代の幕開けとなりました。また、出雲大社の看護の女神を祀った天前社の屋根の檜皮炭が個室の天井裏に敷き詰められ癒しのパワースポットとなりました。今年は既設病棟の改修工事が完成に近づく年で当院にとってまさに昇り龍の辰年です。現在は工事のためご不便をおかけしていますが、もうしばらくの辛抱をよろしくお願いいたします。これだけの病床数減にも拘わらず、皆さまのご協力で在院日数を14日以下に出来たことで経営面では当初予想よりも順調に推移しております。しかし、改修工事がすべて完成する来年までには7対1看護等を確保するためさらに100名近い看護師増員が必要です。病院もすべて新装されて職場環境は大幅に

向上しますので、看護師勧誘へのご協力をお願いいたします。長年試行錯誤してきました救急部の体制も昨年からは内科等各科のご尽力で専任体制を確保することが出来、患者さんや紹介医はもとより学生や研修医の評価も改善しつつあります。大学病院の救急は臨床教育に役立つ米国ER型救急を目指すべきだと考えています。研修医の救急担当も増やして第一線の救急医療から多くのことを学んで貰いたいと思っています。総合医療学講座も出来たので、国が目指している総合医育成の拠点として活動を開始します。これから島根型地域枠推薦学生も次々と卒業してきますが、彼らが地域医療へのモチベーションを高く持ち続けて立派な医師になるようよろしくご指導をお願いいたします。私事ですがこの春に病院長としての任期が参ります。本当に長い間ご協力頂きありがとうございました。

島根大学医学部大田総合医育成センター開所式が行われました

大田市からの寄付による総合医療学講座（寄付講座）のサテライト施設として大田市立病院内に「大田総合医育成センター」が設置され、平成23年10月3日（月）14時00分から開所式が行われました。

開所式には、竹腰創一大田市長、楫野恭久大田市立病院長、小林祥泰島根大学医学部附属病院長、大谷浩医学部長、石橋 豊総合医療学講座教授、野宗義博大田総合医育成センター長ほか関係者約60名が出席し、竹腰大田市長から大田市立病院内に設置された大田総合医育成センターの地域医療における医師確保への取り組みへの期待が述べられ、続いて、小林病院長

総務課 総務担当

からはサテライト施設の仕組みが本日、センター開所により実現し、これから地域医療実践の臨床研修を通して総合医育成を目指すとの挨拶がありました。

開所式に続き、大田市立病院玄関においてテープカットが行われ、大田市立病院職員の皆さんも駆けつけ、盛大な拍手がおくられました。

その後、記者会見が行われ、医療機関の少ない地方の公立病院での設置は全国で初めてで、記者からは多くの質問があり、大田市と島根大学医学部の取り組みへの期待の高さがうかがえました。



式典での挨拶：小林病院長



テープカット



記者会見



大田市立病院の入口に立つ看板

東日本大震災被災地視察報告

病院長 小林 祥泰

昨年10月、全国医学部長病院長会議の被災地支援委員会の中四国担当委員として、支援を行う陸前高田市の高田病院といわき市の磐城共立病院に行ってきました。

東京から新幹線で平泉のある一ノ関まで行きレンタカーで陸前高田に向かいました。市街地に近づくと、ひしゃげた車の残骸の山や津波で中ががらんどろになった家が目立ちはじめ、海に面した市街地に入ると街はすべて流されて、見渡す限り瓦礫と鉄筋コンクリートの建物の残骸のみになっていました。地盤も沈下し道路も一部水没していました。以前の高田病院も写真のように4階まで津波が押し寄せ、見るも無残な状況でした。高田病院は高台にプレハブを建てて診療をしておられました。院長の石木先生は患者さん達を屋上に避難させて間一髪ご自身も助かったということでしたが、奥様を亡くされたということで、本当につら

い思いをされながら陸前高田の医療の復興に尽力しておられ、頭が下がる思いでした。周りには食事をするところもなく、本当に何も無い状況ですが、みなさんが明るく笑顔で働いておられるのを見て安心しました。今年は北海道や九州から研修医が3名来てくれるそうです。

当日は郡山に戻って翌日、福島県いわき市の磐城病院を訪問しました。病院から海岸までは山を越えて7km離れており、被災現場の状況は見ることはできませんでしたが、磐城病院も震度6弱で相当に揺れたそうですが幸に建物被害は無かったそうです。原発からは45km離れており放射能は問題ないとのことでしたが、原発周辺地域から避難している皆さんは本当にお気の毒です。おかげさまで中四国のすべての大学病院から支援の医師を派遣して頂くことが出来ました。ご協力頂いた関連各科に感謝いたします。



陸前高田市の県立高田病院
津波で4階まで被災し使用不能



高田病院前から見た海岸までの市街地
すべて流されてホテルの残骸だけが残っている

病棟等改修その他工事進捗状況

施設企画課 田中 芳樹

昨年6月27日の新病棟（C病棟）開院に伴い、外来・中央診療棟及び旧病棟（A・B病棟）の改修工事が本格開始されました。

現在、外来では、旧手術部・ICU・材料部・救急部等跡地の改修工事が1月23日の新規場所での診療開始（精神科神経科・産科・婦人科・眼科・麻酔科・歯科口腔外科・放射線科・放射線治療科・光学医療診療部等）に間に合うよう、関係各部署と調整をとりながら施工

を進めています。

また、病棟では、B病棟改修工事を3月末までに完了するよう施工を進めており、B病棟8階にモデルルーム（昨年11月上旬に一週間程度公開）を設け関係各位からの意見を聞いたり、関係者に施工中の現場内で棚等の設備・機器設置部分（実寸）をテープで床面に記し、実際の部屋の広さ・使い勝手等の確認をしながら施工を進めています。



1床用モデルルーム(B病棟8階)



4床用モデルルーム(B病棟8階)



現地打ち合わせ(B病棟3階スタッフステーション)



B病棟内部(8階)



外部足場(外来・中央診療棟北側)



病棟南側外観

病院移転スケジュールについて

病院開発担当 渡部 晃

病院再開発事業に係る外来・中央診療棟改修工事は、第1～第5ステージの工期で進められています。第1ステージの改修工事が1月初旬に完成することから、①改修完了部分への移転、②次の改修工事を行うための仮移転等が下図のとおり行われます。1月21日（土）から翌22日（日）をメインの移転日としておりますが、工事等の関係でリハビリテーション部が1月7日

（土）から、眼科は1月27日（金）からの移転となっております。眼科の場合は、移転後の医療機器調整の関係から1月27日（金）、1月30日（月）が休診となります。

また、今後の移転スケジュールにつきましても順次予定しておりますので、ご不便をお掛けしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

改修工事完成部分に係る移転スケジュール

外来移転(第1ステージ)

H24/1/7(土)～1/9(月) 成人の日	リハビリテーション部(外来・中診療棟1F)...	仮移転
1/21(土)～1/22(日)	精神科神経科(外来・中診療棟3F).. 産科・婦人科(外来・中診療棟3F).. 耳鼻咽喉科(外来・中診療棟3F).. 麻酔科(外来・中診療棟3F).. 歯科口腔外科(外来・中診療棟3F).. 放射線科・放射線治療科(RI高工ネ棟1F).. 光学医療診療部(外来・中診療棟1F)...	本移転
1/27(金)～1/30(月)	眼科(外来・中診療棟3F)...	本移転
1/28(土)～1/29(日)	看護専門外来(外来・中診療棟3F).. 治験管理センター(外来・中診療棟3F).. 内科(外来・中診療棟3F).. 皮膚科(外来・中診療棟3F)...	仮移転

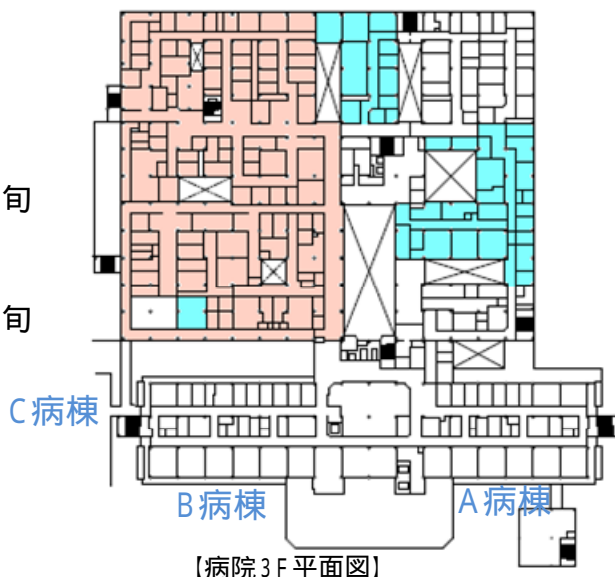
救急部関連諸室/ICU・HCU看護師控室等移転

3/24(土)～3/25(日)	救急部感染診察室等(高エネルギー診療棟).. ICU・HCU看護師控室等(B病棟2F)...	本移転
-----------------	---	-----

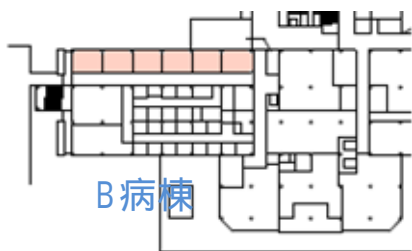
A病棟 B病棟移転(患者移送)

3/31(土)	A病棟 → B病棟	仮移転 (一部本移転)
---------	-----------	----------------

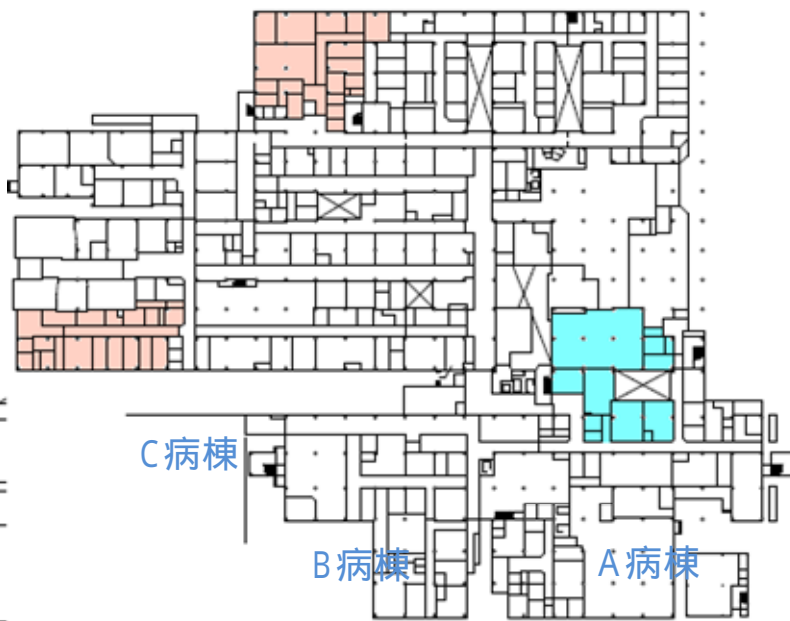
- 外来移転(第2ステージ) 5月下旬
- 外来移転(第3ステージ) 9月下旬
- B病棟 A病棟 期移転 11月下旬
- 外来移転(第4ステージ) H25.1月下旬
- 外来移転(第5ステージ) H25.3月下旬
- B病棟 A病棟 期移転



検査部、放射線部については、居ながら改修が行われます。改修工程のスケジュールにより、順次移転等が実施されます。



【病院2F平面図(B病棟部分)】



【病院1F平面図】

H24年2月からHCUが増床されます

病院開発担当 渡部 晃



【C病棟2F ICU、HCU、MEセンター配置図】

現在ICUには、病床20床が配置されていますが、その内の6床を左図のとおりHCU病床とすることとなりました。

ICUと増床HCUの間は、構造承認・施設基準上の関係でパーティションで仕切られますが、大きく開口できる引戸が設置されます。

看護単位は既存HCUとは別となります。運用開始は、本年2月1日からの予定となっています。

増床HCU(6床)

ICU病床6床を
HCU病床6床に変更



新任のご挨拶

平成23年10月1日付けで、消化器・総合外科学講座の教授を拝命いたしました。謹んで皆様にご挨拶申し上げます。

私は福岡県久留米市の生まれで、昭和58年に長崎大学医学部を卒業し、同大学第二外科（移植・消化器外科）に入局しました。専門は、肝胆膵外科を主体とする消化器外科で、①肝胆膵悪性腫瘍に対する根治手術の追求、②術後合併症のない膵切除・再建手技の確立、③臓器機能温存手術（膵縮小手術）の導入、④腹腔鏡下低侵襲手術の展開を目標に掲げて診療を行ってまいりました。

さて、全国的に外科医の減少が続いていますが、島根大学も例外ではなく、地域医療の維持を含めて喫緊の問題となっています。従いまして、若手外科医をいかにして獲得するかが教授としての最優先課題になると考えています。学生教育に力を注ぎ、入局者がひとりでも多くなるように働きかけていきたいと思えます。一方、島根県の高齢化率（65歳以上人口の比率）はすでに30%を超えており、日本一です。また、都道府県別にみた悪性腫瘍による死亡率も常に上位にラン

消化器・総合外科学 田島 義証



クされています。このような地域特性を念頭におき、これまで培ってきた経験を活かして、根治性のみならず安全性と術後QOLを考慮したより低侵襲の外科治療を目指していきたいと思えます。同時に、雲南市出身で長崎と縁の深い永井 隆博士のお言葉『己の如く人を愛せよ』を肝に命じて日常診療にあたりたいと思えます。何卒お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

総合医療学講座の役割

この度、平成23年10月1日付けで総合医療学講座教授に就任しました石橋 豊です。どうかよろしくお願い致します。

自己紹介というのも恥ずかしいくらい、長く島根大学におります。全職員の中でもかなり長居しているほうではないかと思えます。従いまして自己紹介は、簡単にお伝えします。昭和55年山口大学医学部を卒業、すぐに天理よろづ相談所病院の内科系レジデントになり、そこで内科全般および麻酔科研修をしたのち島根医科大学内科学第四に入局しました。そして、平成20年11月地域医療教育研修センター准教授、平成23年10月から現職であります。

この度創設されました総合医療学講座は、大学内の教室「総合医療学講座」と大田市立病院の中に同時に設置されました「大田総合医育成センター」の2つから成り立っておりますが、“総合医”および“総合力のある専門医”の育成を目的としております。医療の進歩とともに高齢化が進む中、高血圧症と冠動脈疾患に加えて糖尿病も持っているという多種類の病気をお持ちの患者さんが増えております。それぞれの病気毎に専門家に診てもらうことは、理想であっても実際は難しいのが現状です。また、病気だけではなく、患者さ

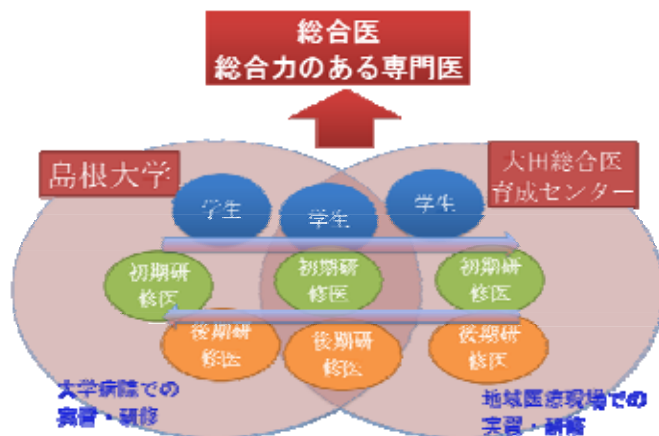
総合医療学講座 石橋 豊



んの家庭の様子や心の状態などにまで心配りができる医師が望まれています。そこで最近注目されているのが一人の患者さんを総合的に診れる医師、すなわち“総合医”であります。また、なんらかの専門医であっても、専門以外の診療能力も兼ね備えた“総合力のある専門医”です。そのような医師を育てるには、大学の中だけでは不十分で、地域の病院での研修もなくてはなりません。この度の総合医療学講座では、大学での研修と地域の病院での研修を一元的に融合させたもので、画期的な研修システムであります（図参

照)。全国で2番目、自治体病院との融合としては全国初の試みでもあります。

現時点で4名の教員（外科系教授1名、同准教授1名、内科系教授2名）が決まり、今後さらに整形外科、総合診療科など10名の教員採用をさせて頂きたいと思っております。これらのスタッフと島根大学および大田市立病院の各診療科のスタッフ、さらには市民の皆様の手もかりながら“総合医”、“総合力のある専門医”の育成に励みたいと思います。どうか、皆様のご理解とご協力、ご支援をお願い申し上げます。



大田総合医育成センター設置について

この度、10月1日付で医学部総合医療学講座外科教授を拝命いたしました。この講座は島根の医師不足（特に外科医不足）の解消のため、大田市の寄付講座で誕生。この構想は、小林病院長、井川教授、そして、石橋教授から聞かされていきました。すなわち大田市立病院でのバーチャルキャンパスの設立です。今春からは山形内科教授、水本外科准教授が大田キャンパスに赴任します。この構想の元に10月1日に設立。私の役目は、島根大学医学部卒業の外科希望者に地域医療の実際を直接指導し、将来の外科医を育成するという役目です。

現在、大田市立病院内に大田キャンパスとして、大田総合医育成センターを設立。センターでは、医学部学生の講義や実際の医療活動を予定しています。現在、私はこのセンター長として、既に外科診療や外科手術の実践を開始しています。また、今月から出雲キャンパスで学生講義に参加させていただく予定です。

昨年3月までは、私は広島県呉市にある呉済生会病院の外科医として勤務。この病院でも最初4名いた外科医が、徐々に辞めて行き、近年その補充が大学医局からストップしました。広島県も全国同様、外科希望者が年々減少して来ています。一方外科的治療は高齢者人口の増加で要望は増すばかりです。外科は今日3K（キツイ、キタナイ、キケン）とか言われて、医学生には人気の乏しい診療科となっています。でも、緊急手術などで患者の苦しみが除かれた時の外科医としての感動はすばらしいものです。この感動を若い医学生に知らせて、一人でも多くの外科医の誕生をお手伝いしようと、心を決め、島根県にやって来ました。かつての外科の3Kを、新たに5Kと呼ばれるよう、すなわちキツイ、キタナイ、キケンに加えて、手術後のカンドウ、

総合医療学講座 野宗 義博



それにカッコイイの5Kとなるように変えてゆきたい気持ちで一杯です。

さて、自己紹介ですが、私の出身地は広島県福山市です。福山誠之館高校卒業後、広島大学工学部精密工学科に入学し、2年の時に家庭の事情で広大医学部を受験。医学部入学当初から外科医をめざし、卒業後は心臓外科医にあこがれていましたが、私の恩師である服部教授（広大原医研外科）と出会い、方向転換。癌の外科医になって、多くの癌患者を救うようにと勧められ入局。大学病院では再発進行癌の外科的治療から、化学療法、免疫療法そして乳がん診断等の研究に従事しました。最近では内視鏡外科手術も習得し、低侵襲の外科医療を目指しています。また、3年間ほど、南フロリダ大学がんセンターに留学し、免疫学を研究。

一方、先輩である武市宣雄先生（広島甲状腺クリニック院長）や星 正治教授（広大原医研医科学研究所放射線影響評価研究部門）らのチェルノブイリ原発事故、およびカザフスタン核実験場での被曝者甲状腺

検診に従事。

以上、今までの経験を踏まえ、医学生に外科の魅力を少しでも分かち合えるように努めます。そして、微力ながら島根県の外科の発展のため、地域医療の向上

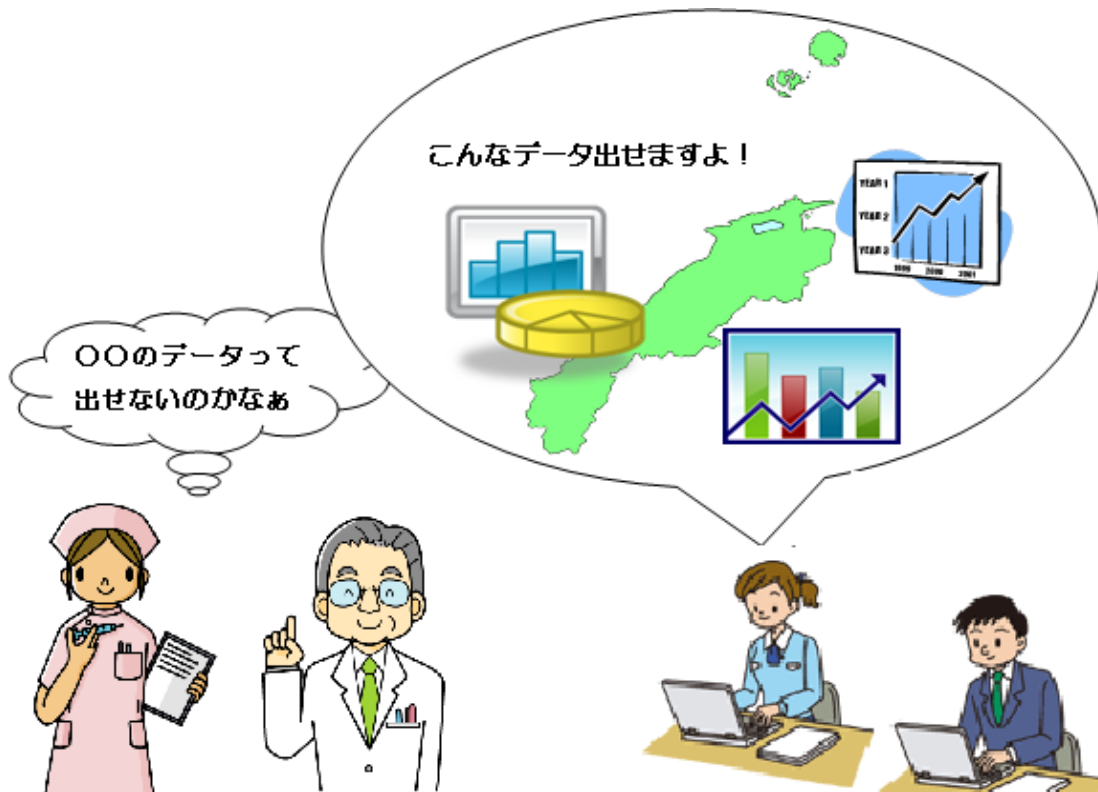
のため、日夜惜しまず努める覚悟でいます。どうか、今後とも何卒ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

データセンターの役割と利用について

データセンター 中林 愛恵

データセンターは、本院の電子カルテ等により集積された各種診療データを病院内にて積極的に利用することを目的として、平成23年4月に設置されました。病院長をセンター長とし、センター員は会計課経営支援室専門職員と医療サービス課病歴担当の診療情報管理

士及びデータ管理補助者により構成されています。当面の主な業務は下記の通りとしていますが、院内各部門の役に立つような資料提供にも努めて参りますので、医学部本部棟3階のデータセンターにご相談ください。（内線：6095, 6096）



【データセンターの主な業務】

1. 手術・術後評価データベースの構築とNCD登録

手術機能評価に関するNCD（National Clinical Database）登録の必要項目について院内でデータ保有できる仕組みを構築し、各種分析なども行うことを念頭に置き、データ整備を行っていきます。整備後は、外科系の専門医取得にも利用していただく予定にしております。

2. 臨床治験データベースの構築

治験推進のために達成率等をリアルタイムに把握できる仕組みを検討しています。

3. 患者追跡、地域連携サービス向上システム

本院の医療の質ならびに患者サービス向上のため、退院患者や紹介患者の追跡を可能にする仕組みの構築を検討しています。

4. DPCデータ分析、QI（Quality Indicator 医療の質指標）算出

DPC分析システム（Girasol）を用いたDPC分析や、DPCや病名の精度チェック、クリティカルパスの改善のための資料作成等に取り組んでおり、情報提供に努めています。国立大学病院評価指標等で定められているQIについて、本院の情報を計測し、情報提供していきます。

CTガイド下経皮的胃瘻(PG)、USガイド下経皮経食道胃管挿入術(PTEG)の紹介

放射線科 鶴崎 正勝

食道がんなどによる食道狭窄や脳神経障害などで嚥下困難な患者さんに対し経皮内視鏡的胃瘻造設術(PEG)が行われることが多いのですが、様々な理由でPEGが造設できない場合があります。日常診療で多くお目にかかるのが、①食道の狭窄が強く内視鏡が通過できない場合、または、②胃切除後、進行胃癌や食道裂孔ヘルニアの症例などです。これらの方達は中心静脈栄養の点滴か、もしくは、不快感と肺炎の危険性が増加する経鼻胃管での栄養管理を余儀無くされてきました。当然、中心静脈栄養では施設入所はできませんし、経鼻胃管は長期に使うべきものではありません。

①の場合の多くはガイドワイヤーを用いて細いカテーテルは通過するため、カテーテルを通じて空気を

胃内に注入し、CTガイド下に穿刺位置を決め、鮎田式胃壁固定具またはT-fastenerにて胃壁を固定し穿刺し造設する、経皮的胃瘻造設術(PG)が可能です(図1)。また、②のように胃瘻そのものが困難である場合、USガイド下に行う経皮経食道胃管挿入術(PTEG)という方法もあります(図2)。特に、潰瘍の主治療法が胃切除だった頃に胃切除を受けた方が脳出血や脳梗塞の好発年齢になって来ている事等から今後 PTEGの適応になる症例は増加するものと思われまじ、通過障害をきたした末期がんのイレウス管挿入や胃内容物ドレナージにも適応があり、当院でも経鼻胃管の末期がんの患者さんへ施行しました。適応の可否や症例の紹介は放射線科(IVR部門)までよろしくお願ひします。

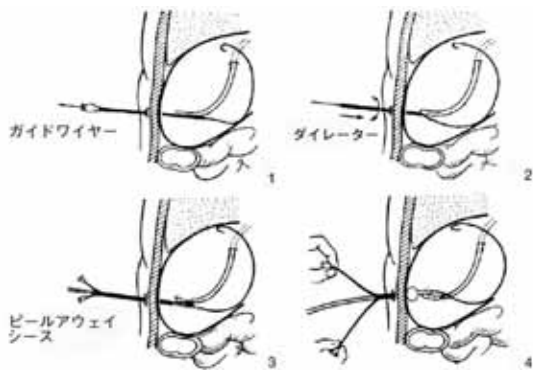


図1 経皮的胃瘻の挿入手技のシエマ



図2 左はPTEG後、右はボタン型留置具

光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助(先進医療)

この度、当院は「光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助」についての先進医療実施施設として、厚生労働省より認定を受けました。この先進医療は、光トポグラフィー検査装置を用いて大脳皮質のヘモグロビン濃度を計測し、うつ状態の原因になっている精神疾患の鑑別診断を補助するものです。

光トポグラフィー検査とは、近赤外光を用いて大脳皮質の脳活動をとらえる脳機能画像検査です。明るい部屋において、座位で検査ができるため、患者さんの自然な状態の脳機能評価を行うことができます。この客観的指標による評価で、うつ病・躁うつ病・統合失調症のいずれの可能性が高いかが、約7~8割の正確さで示されます。ただし、この結果は確定診断ではなく、あくまで臨床症状にもとづく鑑別診断の補助として用いられます。なお、「光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助」は、先進医療の一つとして2009年4月に精神医療分野で初めての承認を受け、現在全国で当院を含めた13施設でのみ実施されています。

これまでの問診を中心に行ってきた診断の補助とし

精神科神経科 宮岡 剛、堀口 淳

て光トポグラフィー検査を行うことで、より正確な診断を行うことが可能になります。また、客観的なデータが出ることにより、患者さん自身が病気であることを受け入れ、積極的に治療を受けることが期待でき、家族や周囲の人も患者さんが病気であると理解できることで療養しやすい環境を整えることにも役立ちます。さらに、うつ病の早期発見・早期治療に結びつけることで、年間3万人を超える(うつ病と関わりの深い)自殺者を減らすのにも貢献できるのではないかと期待されています。



iPadの手術現場での利用について

泌尿器科では昨年10月19日から本院で初めて、今話題のiPadを手術室で活用しています。iPadは軽くて薄いタブレット型コンピューターです。手術室での利用にあたっては、術野で操作できるようにiPadを清潔下で準備しておくことが重要です。手術前に、CTやMRIをDICOM画像としてiPad用OsiriX(市販のsoftware)に取り込んでおきます。特に横断面のみならず、矢状断あるいは冠状断での画像を取り込み3次元の画像を構築しておくことで便利です。こうすると、手術中にiPadを用いてより詳細に画像を読み取ることができるからです。

手術を成功させるには“チーム”で手術を行っているという認識が必要で、そのためには「情報を共有する」という意識が非常に重要となります。手術中に遭遇した構造物の特徴を把握しにくい場合は、その場でiPadを利用して手術前に構築した画像と比較します。iPadに取り込まれた画像はその場で鮮明に拡大することが可能で、術前のCTやMRIを詳細に検討しながら、今そこにあるものが何であるかを執刀者のみならず手術

泌尿器科 椎名 浩昭、平岡 毅郎、井川 幹夫

チームの全員で再確認することができます。このようにiPadを用いると、情報の共有をしながら手術を進めることができるため、これまで以上に安全な手術を提供することが可能となります。もちろん、CTやMRIなどの画像は手術室の電子カルテの端末にも取り込まれていますが、執刀者が端末まで行って確認し、また術野に戻るのには労力が必要で決して賢明とは言えません。加えて、画像確認から戻ってきた時には、術野が微妙にずれていることがしばしばで、この場合は再度術野の調整をし直す必要があります。iPadを用いれば、このような不必要な労力から解放され、手術チームの全員と情報を共有しながら正確かつ安全に手術を進めることが可能となるのです。

今後はiPadの画像を手術室の大モニターに写し、ポリクリ学生に対しては教育的側面から、また医療スタッフ間では「情報の共有」の観点からiPadを有効に活用し、従来と比べてより安全で質の高い医療の提供を目指したいと思います。



実際での手術では、iPad画像を参考にして、腫瘍部位と周囲組織との関係を確認しながら手術をすすめています(膀胱全摘症例)



iPadの画像を手術室の大モニターに投射し、摘出予定のリンパ節、尿管の走行などをポリクリ学生に説明し教育面でも活用しています(膀胱全摘症例)

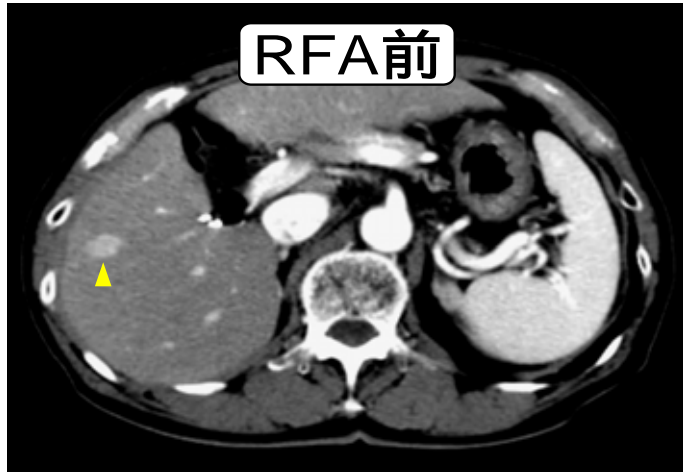


経皮的肝がんラジオ波焼灼療法について

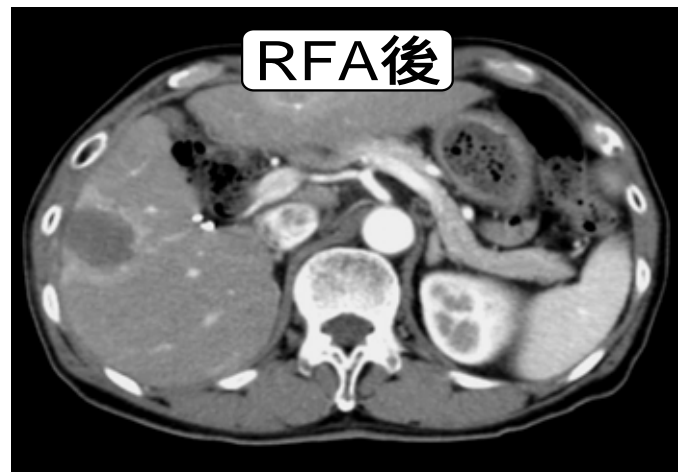
肝臓内科 三宅 達也

肝がんは主にウイルス肝炎を背景として発症するがんで、最近ではアルコール性肝障害や脂肪肝のように生活習慣に関連した肝障害から発症するものが増加してきています。肝がんの治療法には手術、経カテーテル治療、化学療法などがありますが、肝臓内科で行っているものがラジオ波焼灼療法（radiofrequency ablation; RFA）です。超音波で腫瘍を描出しながら腫瘍めがけて針を刺し、ラジオ波と呼ばれる電磁波で腫瘍を焼いてしまいます。手術のように開腹することは

ありませんし、1個の腫瘍を治療する時間は8～12分と短く患者さんへの侵襲が少ないという利点があるうえ、早期のものであれば手術に匹敵するぐらいの治療効果が得られます。基本的には腫瘍径が3cm以内で個数が3個以内の患者さんが適応ですので、RFAで治療するためには早期発見が必要です。ウイルス肝炎の患者さんのみならず、アルコール性肝障害や脂肪肝で肝機能異常のある人は、定期的に検査を行って治療時機を逸しないようにすることが重要です。



矢印の白く染まっている部分が肝がんです



ラジオ波治療後2日目のCTでは焼灼された範囲が黒く変化し、元の肝がんの部位は焼灼範囲に十分含まれています

オーラルメディシン外来の診療開始について

歯科口腔外科 上野 蘭美

オーラルメディシンとは、お口に異常や症状をおよぼす全身性の疾患について診断や治療を行う診療分野です。必要に応じ関連医科と連携し検査や診療を行います。

● 全身疾患とお口の中の関連

口腔や顎顔面領域に症状が現れる全身性疾患には、シェーグレン症候群等の自己免疫疾患、麻疹等のウイルス性疾患、天疱瘡等の皮膚科的疾患、白血病などの血液疾患、胃食道逆流症など消化器疾患があげられます。

骨粗鬆症、放射線治療や抗がん剤の治療等は、口腔内にも影響をおよぼす可能性があるため、治療前に口腔内をチェックする必要があります。

● ビスフォスフォネート製剤と歯科治療

骨粗鬆症をはじめとする骨疾患の治療に用いられるビスフォスフォネート製剤投与後に、歯科治療と関連した顎骨壊死が起こることが知られています。当科のガイドラインに沿って、処置や口腔ケアを行います。

● 入院患者さんの口腔ケア



入院中の患者さんで専門的なケアが必要な場合、口腔ケアや口腔衛生指導を行っています。

● ドライマウス

唾液の量が低下し口の中が乾く状態です。う蝕や歯周病が悪くなりやすくなるだけでなく、口の中がヒリヒリしたり口臭の原因にもなります。原因には薬の副作用や全身性疾患、ストレスが原因となることもあります。原因を精査し適切な処置を行います。

● お口の中の違和感・歯科心身症

金属アレルギー、カビの一種である口腔カンジダ症、傷や感染、粘膜疾患が原因で起こることもあります。細胞診や採血等適切な検査を行い、前癌病変や粘膜疾患との鑑別を行います。歯科心身症が疑われる場合には精神的コンサルテーションを行いサポートをします。

食べること、話すこと、味わうこと、飲み込むこと、呼吸をすること、笑顔になること、お口は生活を行う上でとても重要なところです。「いのちに関わら

ないからたいしたことではない」とお考えになる前に、お困りのことがありましたらオーラルメディスン外来（下記の診察日）にご相談下さい。

本院での外来診察日
 初診：火曜・木曜 午前中（初診受付：8:30-11:00）
 再診：火曜（午前）、水曜（午前・午後）
 木曜（午前・午後）、金曜（午前・午後）

また、昨年4月より当講座関連病院の国立病院機構浜田医療センター、益田赤十字病院にも出張しオーラルメディスン外来を開設しています。

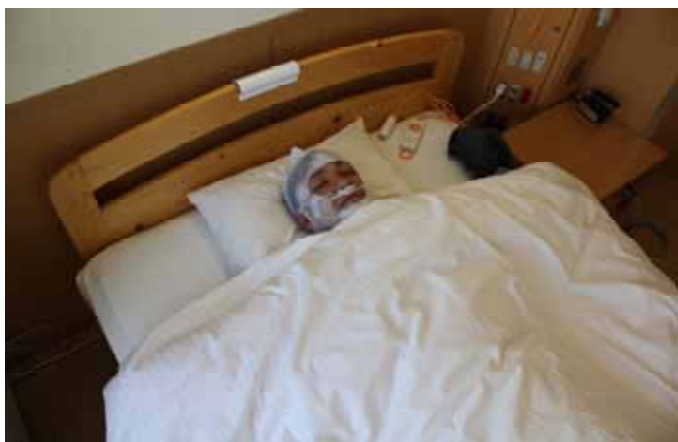
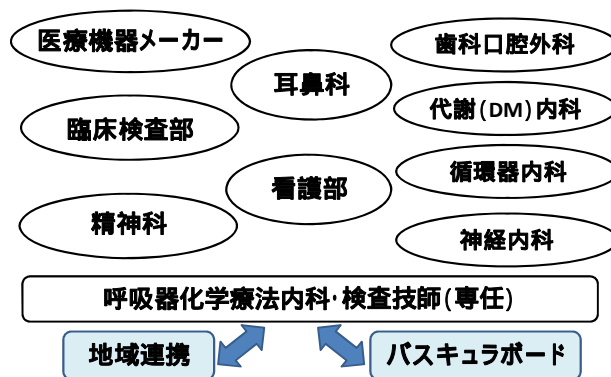
クリニカルパスシリーズ ~ SASパス ~

新病棟の開院に伴い、呼吸器・化学療法内科、循環器内科、神経内科、耳鼻科、精神科、臨床検査部、歯科口腔外科を中心として睡眠ボードを立ち上げ、病院長、副病院長のご高配によりC病棟9階に観察室1室を挟む形式で睡眠検査室が2室完成しました。この検査室では睡眠時無呼吸症候群（SAS）や中枢性過眠症、睡眠時随伴症などの睡眠障害を対象として終夜睡眠検査を行います。従来は一般病棟へ検査機器を持ち込んで終夜睡眠検査を行うものでしたが、今回、検査機器を常設した睡眠検査室を設置した事でパスの修正を行い、検査にかかわる事柄のみならず、患者教育も盛り込んだ内容としました。また、看護、検査、医師、検査機器会社のチーム医療、SAS専門の検査システムの導入を通じて、検査とその後のフォロー体制を整えることでスムーズなSAS診療が可能となりました。今後は、マスコミ、公開市民講座による住民への啓発活動、地域連携パスを導入して医師会との共同診療、各種の講演会を行っていきたいと思っています。睡眠中の無呼吸・低

呼吸器・化学療法内科 瀧田 比呂志、濱口 俊一
 久良木 隆繁、磯部 威

呼吸によって生じる低酸素血症、睡眠障害は、日中の眠気に伴う事故や、循環器、脳血管障害などの生命に関わる症状を呈するため、的確な診断と治療が必要とされます。先生方におかれましては、診察時に患者さんへ『日中の眠気、いびき』などの睡眠障害にもとづく症状の有無を聞いていただければと思います。

睡眠ボード院内組織図



睡眠検査中



観察室

津和野共存病院と雲南市立病院に「ミュー太」を導入

医療情報部 花田 英輔

今年度、鳥根県の遠隔画像診断システム構築補助金により、4年ぶりにマルチメディア双方向通信システム「ミュー太」の2か所への増設が決定し、まず、津和野共存病院に導入され活用が始まりました。もう1か所は雲南市立病院へ12月に導入されました。

今回から小型化され、筐体もジュラルミン製となった「ミュー太」は、津和野共存病院3階会議室での利用を基本とし、1階相談室でも利用可能としています。先方の期待は大変大きく、移動に片道4時間弱かかるために参加を断念していた本学・本院での研修を受講したいとの希望が院長の須山先生から寄せられています。

10月21日に両院間での通信試験を実施した上で、11

月17日に本学の臨床大講堂で行われた卒後臨床研修センター主催のセミナーを津和野に向け中継しました。このセミナーはやはり「ミュー太」を導入している隠岐島前病院にも同時に中継され、中継先からの質問もあり、有効に活用されました。

地域医療再生計画に基づく県の遠隔画像診断システム構築補助金は、これまでは読影システムを主な対象としてきましたが、今年度からはオンライン疑似対話型システムにも適用可能となりました。これの活用により来年度も、新規の導入あるいは既導入端末の更新を期待しています。



臨床大講堂からの中継(2011年11月17日)



津和野共存病院での受講

救急蘇生プログラムの紹介

地域医療支援学講座 谷口 栄作

地域医療支援学講座では、アメリカ心臓協会（以下AHA）の救急蘇生プログラムを国内で提供している、日本ACLS協会、鳥根ECCトレーニングサイトと連携してコース開催を行っています。

AHAは、1970年代より心肺蘇生法のガイドラインを策定し、最新の医学的根拠と成人教育手法に基づく心肺蘇生法教育を開発し世界をリードしている学術団体です。

特筆すべきはその教育手法で、これまでの救急蘇生教育とは一線を画する画期的な方法でコースが進んでいきます。そして何よりも優れているのはインストラクターに対してしっかりとした成人教育手法が教育されている点で、成人に対して教育効果を向上させるには、それ相応の手法が必要であるという根拠から受講生がストレスなく、達成感を持って講習を修了することが出来ます。

私もまた、この素晴らしい救急蘇生教育を普及する



研修医を対象としたAHA・BLSコースを開催

べく、日本ACLS協会、鳥根ECCトレーニングサイトの一員として活動していますが、鳥根大学医学部においても、平成22年4月から現在まで計25回、月1回のペースでBLS、ACLS、PALS、各インストラクターコース等を開催しています。

このハイクオリティな世界最高峰の救急蘇生教育を院内の医療従事者および事務職員の多くの方々に受けていただきたいと思います。皆さんが受講したい日に開催することも考慮いたします。是非受講してみてください！

担当 地域医療支援学講座
布野慶人（ふの よしひと）
Tel:0853-20-2558
Mail:funo47@med.shimane-u.ac.jp

平成23年度ホームカミングデー(出雲キャンパス)を開催

昨年10月15日（土）に大学祭（くえびこ祭）に併せ、ホームカミングデー（出雲キャンパス）を開催し、市民を含む約70名の参加がありました。

山本学長、佐藤利昭同窓会連合会副会長の挨拶に続き、井川副病院長から「附属病院の再開発について」、大谷医学部長から「島根大学医学部の現状と展望」と題してそれぞれ講演があり、参加者は医学部及び附属病院が建物などのハード面だけでなく、高度先

総務課 総務担当

進医療及び地域医療を支える医師の育成への取組状況について熱心に耳を傾けていました。

講演会の後、参加者は6月に完成した新病棟の最新設備を装備する手術室、ICU、HCU、MCU、腫瘍センター病棟や新たに設置された緩和ケア病棟など、患者さんのニーズに応じた満足度の高い医療、療養環境の整備状況を見学しました。



新病棟の見学



大谷学部長の講演

第8回島根大学医学部附属病院関連病院長会議を開催

昨年9月30日（金）18時から出雲ロイヤルホテルにおいて「第8回島根大学医学部附属病院関連病院長会議」を開催しました。

今年で8回目を数える本会議には、島根県内44関連病院の病院長等と、小林病院長を始めとする本院関係者30名が出席し、地域医療の充実及び地域の病院との機能的な役割分担と連携の更なる構築に向けて意見交換を行いました。主な内容は次のとおりです。

1. 島根大学医学部附属病院と地域医療について
2. 初期臨床研修及び後期臨床研修について
3. 大田総合医育成センターの設置について
4. 病院再開発について
5. Aiセンターの設置について
6. 防災シンポジウム「島根大学医学部附属病院における防災・危機管理と地域振興」の開催について
7. 緩和ケアセンターについて

（資料は、病院ホームページをご覧ください。）

総務課 総務担当

議事に引き続き懇親会が催され、関連病院の病院長等と本院関係者との間で、熱心に情報交換が行われました。



防災シンポジウムを開催

島根大学では、国立大学協会等の共催により、一般市民を対象として、島根大学市民公開講座「島根大学医学部附属病院における防災・危機管理と地域振興」と題したシンポジウムが昨年10月1日（土）に開催され、地域住民を中心に約120名の参加がありました。

シンポジウムでは、山本学長挨拶の後、出雲市の防災体制（森山危機管理監）、大学病院の防災対応（小林病院長）、特別講演として防災システム研究所所長の山村武彦氏から「目からウロコの実践的防災・危機管理」の講演が行われました。その後、近隣コミュニティセンター長、地域交流推進担当教員等によるワークショップ「近助の精神」が行われ、山村講師から日頃の地域交流のノウハウや課題の指摘があり積極的な



島根大学医学部附属病院ホームページ 病棟再開発における災害対応

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/index.html>

総務課 総務担当

意見交換が行われました。シンポジウム終了後行われた地域住民のためのキャンパス内の防災施設・避難場所（防災対応立体駐車場）見学ツアーにも約30名が参加し好評でした。

参加者からは、大学病院における防災・危機管理体制の実情が把握でき、災害時における大学病院の避難場所やヘリポート、地下水供給、エネルギー供給や大型焼却施設などを見学することにより災害発生時の行動に役立てることができる等の感想が寄せられました。

また、本シンポジウムの内容は、地元のケーブルテレビで定期的に放映され、幅広い地域住民に防災意識の大切さをアピールしています。



医の倫理委員会主催講演会を開催しました

病院医学教育センター 廣瀬 昌博

去る12月16日（木）に医の倫理委員会主催の講演会として、熊本大学大学院生命科学研究部生命倫理学分野教授 浅井 篤先生をお招きし、「研究倫理の基礎」と題してご講演をいただきました。浅井先生は、カリフォルニア大学サンフランシスコ校、豪モナッシュ大学ならびに京都大学で研鑽を積み、わが国の医療倫理分野での第一人者のお一人です。

冒頭、大谷 浩医学部長からの挨拶で、昨今の医療環境から医学・医療分野での倫理の必要性、重要性が強調されました。

浅井先生のご講演では、新聞等での報道事例の具体的な提示をもとに、「研究とはなにか」、「研究倫理は必要か」を先ず示され、「研究倫理の基本原則」では、「Respect for persons: 人格の尊重」、「Beneficence: 最善の利益」および「Justice: 正義・公正」の3原則を示されるとともに、研究倫理の代表的ガイドラインとして「ヘルシンキ宣言」がもっとも重要であることが紹介されました。その他、「特

別な配慮を必要とする参加者」、「余剰生体試料の使用」に関する基本原則、また、最近とくに話題となっている「利益相反: Conflict of interest」など、その都度、身近な事件や報道を提示しながら、研究倫理の基本について幅広くそして、分かりやすくご講演されました。

質疑、応答では、Redundant publicationに関する問題、また、わが国における医療倫理の状況などについての質問がありました。

わが国では、平成20年7月臨床研究倫理指針が全面改正され、これにともない本学においても臨床研究倫理に関する研修会、講演会を年1回程度開催する必要があります。また、大学院講義としての位置づけもあり、多数のみなさまのご参加により、講演会が成功裏に終了致しましたことを参加者並びに関係者の皆様方に御礼申し上げます。

「大学病院人材養成機能強化事業ステップアップ研修会」を開催しました

去る12月1日（木）に平成23年度文部科学省「大学病院人材養成機能強化事業」の一環としての「ステップアップ研修会」に聖路加国際病院福井次矢病院長をお招きし、「エビデンスを作り、まとめ、使うー疫学の臨床応用の歴史と現状ー」と題してご講演をいただきました。

冒頭、小林祥泰病院長からの挨拶で、福井次矢先生はわが国における「総合診療」や「臨床研究」の第一人者であることが紹介されました。

福井先生のご講演では、先生ご自身の経験をもとに「public health」や「臨床研究」の重要性を強調されておりました。福井先生は京都大学をご卒業後、聖路加国際病院や米国キャンブリッジ病院でプライマリ・ケア内科学を学ばれ、「臨床疫学、public health」の重要性や今では当たり前の「EBM（Evidence based Medicine）」について身をもって体験されたそうです。例えば、当時の米国の病院で研修中のレジデントと指導医の会話の中で「特異度、尤度比、オッズ」などの専門用語が普通に使われていることに驚かれたことが紹介されました。

これらの経験から、それまでなかった総合診療（一般内科）を米国から持ち帰り、臨床疫学の方法論による研究の普及や京都大学公衆衛生大学院の設置に尽力

病院医学教育センター 廣瀬 昌博

されたご経験を先生ご自身の経歴とともに紹介されました。聖路加国際病院に移動されてからは、大学病院では実践できなかった臨床研究専門の部署を設置し、「QI（Quality Indicator）」の測定により、病院活動の改善に努力されているとのことでした。現在は、日本版メディカル・スクールの設置をお考え中とのこととわが国の医療界は福井先生の動向に注目しています。

折しも、厚生労働省は、医療の質改善を目的に医療施設の「臨床指標」の開示を推進しており、福井次矢先生のこれまでの業績はまさにわが国の医療のMile stoneと云っても過言ではないでしょう。本院も小林病院長により、データセンターが設置され、「臨床指標」すなわち「QI」開示に向け鋭意努力しているところです。

本会の開催によって「臨床疫学」や「public health」が本学でも理解され、今後「臨床研究」が普及し、医療の質改善に資するものと期待しているところです。

なお、近隣の医療機関の方々の参加も含め、多数の皆様にご参加いただき、活発な討論により本会が成功裡に終了できましたことを、参加者並びに関係者の皆様方に御礼申し上げます。



病院医学教育研究成果報告会を開催しました

病院医学教育研究助成は平成17年度から実施されていますが、その研究成果に関する検証の一環として平成23年度採択課題から成果報告会の開催がまじりました。その先駆けとして、平成22年度研究部門の7件につき、成果報告を実施しました。

第一回目は、10月25日（火）感染対策のための研修会とともに開催しました。第一部は、病院医学教育研究成果報告として、本院医療サービス課診療情報管理士の中林愛恵氏により、「ICT介入によるMRSA発生と抗MRSA薬使用状況の関連性に関する医療経済学的検証」ならびに本院検査部の森山英彦氏により、「MRSA感染を対象とした、より効果的な院内感染対策の構築」について報告がありました。第二部は、「手術時手洗いの現状と新しい手術時手洗い方法の有用性」のタイトルで、スリーエムヘルスケア（株）プロフェッショナルサービスグループの山元美香氏より、手術時手洗いの最新情報についてのご報告をいただきました。この感染対策研修会は、手術部における手術時手洗いの変更とともに企画されたものです。

中林氏は、本院では薬剤部による指定抗菌薬の届出義務化、注射用抗菌薬のモニタリング等や感染対策室およびICTによる感染対策によりMRSAの検出状況が減少していますが、それについて医療経済学的に検証しました。その具体的な研究として、大腸・直腸手術患者を対象に術後感染症により延長した在院日数や医療費について検討しました。本研究により、外科手術での適切な抗菌薬投与が確認され、抗菌薬予防投与や在院日数の短縮の可能性が示されました。

森山氏は、MRSAの検出状況をあたらしい分子疫学解析POT法を利用してよりの確で迅速なMRSA感染の新規検出に関する疫学解析を行い、院内伝播の制御における有用性について報告しました。旧来法によると2010年における院内伝播を疑う症例は118例で、POT法での解析に加え、場所（病棟、移動）や時間（入院日、検体

病院医学教育センター 廣瀬 昌博

採取日）などの情報を考慮し、院内伝播が的確なものとなったことが報告されました。

第二回目は、11月15日（火）医療安全のための研修会とともに開始致しました。

第一部病院医学教育研究成果報告として、本院薬剤部西村信弘准教授より「広域抗菌薬の適正使用推進のためのPK-PD理論に基づいた投与計画案への介入およびその効果に関する研究」ならびに病理部原田祐治准教授より「FISH法を用いた尿細胞診検体における尿路上皮癌細胞の検出について」についての発表がありました。第二部では、本院MEセンターの糸賀修也氏より、あたらしいAED装置の導入に際し、従来のAED装置と比較しながらその使用方法や注意点についての説明がありました。

薬剤部西村准教授は、カルバペネム系抗菌薬メロペネムおよびドリペネムについてモンテカルロ・シミュレーションを用いた薬剤濃度シミュレーションにより、投与設計を行い、カルバペネム系抗菌薬のPK-PD特性および患者の腎機能を考慮した投与方法を立案し、院内肺炎患者の治療に臨床応用しました。このことにより、PK-PD理論に基づいた個別化治療を行うことが可能で、効果的かつ安全な抗菌化学療法を推奨できることが報告されました。

病理部原田准教授は、尿路悪性腫瘍の大半を占め、術後再発の頻度が高い尿路上皮癌に関して、その尿細胞診による異型細胞検出の有用性について旧来法と比較検討しました。FISH（fluorescence in situ hybridization）法は、尿細胞診検体を用い、尿路上皮癌などに起因する染色体の数的異常を検出する方法で、尿路悪性腫瘍における細胞診の補助的診断法として利用可能か否かを報告しました。

なお、第一回目、二回目の参加者数はそれぞれ308名および392名と、多数の参加者がありました。ご参加ならびに関係者のみなさまに感謝申し上げます。



医療サービス課 中林 愛恵氏



検査部 森山 英彦氏



薬剤部 西村 信弘氏



病理部 原田 祐治氏

ワークライフバランス支援室活動報告 - 大学病院人材養成機能強化事業に伴う「女性医師のキャリアアップ支援に係る交流会」 -

文部科学省の大学病院連携型高度医療人養成推進事業に島根大学が申請して採択された「山陰と阪神を結ぶ医療人養成プログラム（4大学プログラム）」は、神戸大学・鳥取大学・兵庫医科大学と連携して卒後臨床研修終了後の医師のキャリア形成を支援する事業です。診療科毎に4大学が緊密に連携・協力して得意分野による相互補完を図り、各病院を循環しながら修練や幅広い経験を積むことができる医師キャリア形成システムを構築することを目的としています。島根大学では、今年度から新たに「女性医師フレキシブルコース」を策定しました。これは各大学の連携プログラムコーディネータや診療科に加え、各大学の女性医師支援部署が連携して女性医師のキャリア形成や就業継続支援をおこなうもので、島根大学ではワークライフバランス支援室がコアとなって活動します。

今回、去る12月3日（土）神戸市内で島根大学医学部キャリア形成支援部門と島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室が「女性医師フレキシブルコース」のキックオフミーティングを共催で開催しました。4大学の女性医師支援に関わる指導医や関係者、



テーブルセッションによる女性医師交流会

ワークライフバランス支援室 内田 伸恵

女性研修医あわせて19名が参加しました。

島根大学4大学プログラムコーディネータの廣瀬昌博病院医学教育センター長が同プログラムの概要を説明後、内田伸恵室長が「女性医師フレキシブルコース」の概要と目的について説明しました。女性医師が専門医を目指して研鑽を積む時期と出産育児など女性としてのライフイベントの時期が重なるため、診療科と連携してキャリアパスやロールモデルを提示し、育児支援などをおこなうことが「女性医師フレキシブルコース」の目的です。引続き各大学の女性医師支援の取組が報告されたのち、意見交換をしました。「女性医師フレキシブルコース」が実効的に機能するためには、育児中の女性医師も4大学プログラムに参加できるように支援策を行なっていることを積極的に広報周知すること、各大学の院内保育所の利用規約など事務手続きが必要であることなどの指摘が出ました。参加した研修医からは、各大学とも女性医師支援策が充実しており、安心したとの声がありました。今後も4大学間で積極的に情報交換をしていくことを確認し、交流会を終了しました。



4大学女性医師による意見交換

中国地区DMAT実動訓練に本院DMATが参加

昨年11月19日（土）島根県宍道湖南部を震源とする震度6強の地震が発生したとの想定で、中国5県のDMAT（災害派遣医療チーム：医師、看護師、調整員の4～6人で構成）24チーム、150名が被災地にいち早く集結し、広域的な医療救援活動の実動訓練が行われ、本院のDMATが参加しました。

DMATは、島根県庁内災害対策本部からの衛星電話を使用したEMIS（広域災害救急医療情報システム）により指示を受け、松江赤十字病院、島根県立中央病院、浜田医療センターの各参集拠点病院に急行。各病院の



手順を確認しているDMAT

の医師等と合流し、けが人の重症度の振り分け、治療、県外への患者搬送の手順を確認しました。また、SCU（広域搬送拠点）の出雲空港に急行した島根大学チーム他25名は、各参集拠点病院からの患者搬送を受け、航空機を使った県外への搬送訓練を行いました。

20日（日）には、島根県立中央病院において、実動訓練の問題点等の報告及び東日本大震災におけるDMATの活動報告が行われ、情報の共有化や連携強化等今後の課題も明確になり、実りある訓練となりました。



トリアージと搬送準備の訓練

婦人科 中山講師が日本医師会 医学研究奨励賞を受賞

婦人科の中山健太郎講師が、平成23年11月1日（火）日本医師会設立記念医学会において「日本医師会医学研究奨励賞」を受賞し表彰されました。

日本医師会医学研究奨励賞は、医学上将来性に富む研究を行っている者に授与される名誉な賞で、平成23年度は15名が受賞し、産婦人科領域では中山講師1名のみを受賞です。

この受賞は、①卵巣がんの新規癌遺伝子NAC1の発見、②膵臓がん、大腸がんなどの他臓器がんにおけるNAC1遺伝子研究、③NAC1の機能解明と臨床応用（分子標的薬としての利用）、④卵巣明細胞がんでの新規癌抑制遺伝子ARID1Aの発見、など一連の研究成果が評価されたもので、中山講師は、これまでも米国留学中「HERA卵巣がん賞」、帰国後医学部附属病院婦人科での研究に対して「日本産科婦人科学会学術奨励賞」などを受賞しており、大きな賞としては今回で3件目の受賞となりました。

11月15日（火）に行われた報道発表（記者会見）で中山講師は、「患者の治療をしながら続けてきた研究が認められ大変うれしい。教授をはじめとする教室の

総務課 総務担当

タッフの協力がなければ出来なかった。今後もさらなる研究を進めていきたい。」と語りました。

また、指導にあたった宮崎教授は、「少人数の教室で、臨床を行いながら研究も続けており、地方でこのような大きな賞を受賞したことは、若い学生の励みにもなるはず。」と語りました。



記者会見での中山講師

ガイジン部隊とのオンセン珍体験

精神科神経科 堀口 淳

十数年前のはなし、というか、傑作でしょうかねえ。当時の所属先の教授が主催した学会の、その際の何の用事のついでであったのかの記憶は、もうとっくに、失念でもありますが、参加したガイジン学者さんたちのうちのほんの一部、7人ぐらいだったかな、それもそう、そうそう、そうそうたるお顔ぶれをお連れして、会場からはかなりはずれた山の中の温泉に、まあ、ご案内したわけでありませう。日本人は上司の教授と私の2人だけでしたから、総勢10人ほど、夜、何とか駅までローカル電車、そこからが既に戦いで、真っ暗な夜道を2〜3キロも歩いた、歩かされた、お連れした、ガイジン部隊は多国籍軍で、みな、果たしてどうであったのか、ホテルのチェックイン前だったのか、大きなトランク引っ張り、ひっぱり、ごろごろ、ゴロゴロ、行けども、行けども、遠い、遠い、道端には人気もなく、人家もまばらで、みな、次第に寡黙、沈黙、サイレントとなり、次第にしんどくて、ゼイゼイともなり、でも何とか到着したのでありました、小さな鄙びた一軒家のような”温泉”？

で、温泉といっても、ただの銭湯風で、脱衣場も、それはもう、あの懐かしい、昔ながらの構造で、ちゃんと牛乳やコーヒー、果てはラムネサイダーまで置いてあって、私にしてみれば最高ではありました。でもねえ、みんな教授ですよお、ガイジンさんですよお、それも。

薄暗いが、じゃが、このほうがまだちょっとはましやったのかなあ、そりゃあ、多国籍軍ですから、温泉、銭湯、裸はみな初めてでしたもん。ここで裸にならにゃあ、あかんのか、「えええ、はだかあああ・・・（英語）」？と呟いて怯え出す、やせやせのアメリカの有名教授。ひそめ眉で黙り込んで腕組みして座り込んでこちらを睨み倒すドイツの親分、超太め。ニヤニヤ顔で、私たち2人の仕草を、まねまねする東欧の教授。不思議そうな表情で、天井やら、脱衣籠などを観察するイタリア系。よくぞここまで歩かせたな、で、なんやて裸やて、しかもこの狭い、汚い、えっ、ここで脱ぐのかあ、これがジャパニーズう？といったような厳しい、つらい雰囲気。

ここからも修羅場は続いた。先に見本をと、先ず筆者から。あのガラス戸一つ開けたら、すぐ湯船の、それも楕円のが真ん中に一つの、あの銭湯的、でも温

泉。正面は見事な富士山の、タイル絵、あのいつもの、あのフジノヤマ。

さあ、ひとり、また、ひとり、戸を開けて入ってくる、入ってくる、ニヤニヤが、ひそめ眉が。おっ、いかん、やせやせはパンツのままやでえ。脱ぐんよ、脱ぐんよとエクスペインしていたら、ニヤニヤは堂々たる入場、前も隠さず堂々と。ありゃりゃああ、のりゃあ、なんとひそめ眉はスリッパ履いたままやがなあ、もう湯船に入ってしもうたがなあ、楕円に、湯船に。沈黙が、サイレントが、なおも続く、続く。他の客はゼロ、これ幸いか？不幸とも言うべきか？で、いきなり大声で、ひそめ眉が言う、言う、言った、「へい、これ、ジャパニーズオンセン？スタンダード？」のようなことを言う、言う、言った、ひそめたまま。イタリア系はさっさと流しでゴシゴシ、やっぱりスリッパ履いたまま。

「こうですよお、こうして、こうして、じゃあ、湯船にみなさーん」と、私が「全員集合」と大声で。小さな楕円の湯船に入り、楕円に円陣となると、もう湯はあふれるは、脚が触れるは、私の対面2メートルにはひそめ眉、両横にイタリアとやせやせが。硬い、硬い、まだまだサイレント、自分らなんでここに、といった、どうなつとるんぞ、といった雰囲気。仕方なく私が「へい、ジャパニーズ、オンセンソング」とか言って、「ババンバ、バンバンバン・・・いい湯だなっ、・・・」とかと、いきなり歌って、手拍子して、盛り上げようとして、ねばったのでありました。じゃが、みな、ますます、「なんじゃあ、それは、なんじゃあ？」といった感じとなり、ワンバイワン、湯殿を出て行きました、確かあそこは、広島県の湯来温泉でした。



2011夢フェスタinいずも“オロチ踊り”に島根大学 医学部チームが参加

総務課 総務担当

昨年10月9日(日)に出雲市の中心街を舞台に開催された、2011夢フェスタinいずも“オロチ踊り”に、開院以来参加している島根大学医学部チームが地域との交流と職員の親睦を目的に参加しました。

巨大オロチを先頭に、山車に続いて6年ぶり参加の島根大学医学部他8チームからなる総勢500名の踊り手の列が登場。本学のチームは、小林祥泰病院長以下、医学部学生、外国人留学生、看護部、事務部の総勢75名の参加により、「そーれ」の掛け声をあげながら歩行者天国のJR出雲市駅前くにびき中央通りを踊り歩きました。



巨大オロチを先頭にくり出す



医学部チームのオロチ踊り



病院長を中心に集合

「世界糖尿病デー」に花火を打ち上げました

内分泌代謝内科 守田 美和

このイベントを通して一人でも多くの方に糖尿病について興味を持って頂き、そして知識を深め予防や治療の大切さを理解してもらえることを期待しています。

11月14日は国際連合と国際糖尿病連合が定めた「世界糖尿病デー」です。現在、世界で糖尿病とともに生きる人の数は3億6600万人、10秒に3人が新たに糖尿病を発症していると言われていています。世界の糖尿病人口は世界的な脅威となっており糖尿病の予防・治療・療養を喚起する啓発活動を推進する事を世界に呼びかけるため、またその脅威に対して一致団結しようとの狙いで、世界各国で著名建造物のブルーライトアップイベントが行われました。

出雲市では島根大学医学部附属病院内分泌代謝内科と1型糖尿病サロンの患者メンバーで企画し、シンボルマークであるブルーサークル花火を打ち上げました。糖尿病患者、医療関係者、出雲市民などから募金を呼びかけ打ち上げ費用に充てました。

11月14日当日は秋の夜空に75発の花火が輝きました。約40名の患者、医療スタッフが神戸川土手（出雲市）に集まり、また、附属病院窓からは入院患者や病院スタッフが夜空を彩るブルーサークル花火を鑑賞しました。季節外れの花火はとても美しくとても好評でした。



島根県病院対抗バレーボール大会に参加して

平成23年11月6日に第77回島根県病院対抗バレーボール大会が行われ、島根大学医学部附属病院からは医師、看護師、ME、事務職員など様々な職種が集まり今年も男女揃って出場しました。

一昨年3位入賞をした男子は優勝を目指してチーム作りをしてきましたが惜しくも予選で敗退してしまいました。女子は若手のメンバー中心で全員揃っての練習はほとんどできてない状況でしたが、持ち前のチーム



健闘した男子チーム

会計課 佐々木 敏幸

ワークの良さを本番で発揮し見事予選を勝ち抜き3位入賞を果たしました。

今回、小林祥泰病院長、秦美恵子看護部長をはじめとし多くの方々に応援していただき部員一同大変励みになりました。今年も昨年以上の成績が残せるようチーム一丸となって頑張りますので、引き続き応援よろしくをお願いします。



第三位の女子チーム

ボランティア活動について

ボランティアコンサート

医療サービス課 患者サービス室



10月27日 アンサンブル合歓の木のみなさんによる「大正琴演奏会」



11月11日 山崎 貢さんによる「歌のコンサート」



11月18日 デュオ・ラ・メールによる
「クラリネットとピアノのアンサンブル」



12月14日 緩和ケア病棟のクリスマス会



12月21日 島根大学混声合唱団によるクリスマスコンサート

病院運営委員会の報告

平成23年11月16日
副診療科長の異動

診療科名等	職名等	新	旧	発令日
循環器内科	副診療科長	高橋 伸幸	佐藤 秀俊	平成 23 年 11 月 1 日

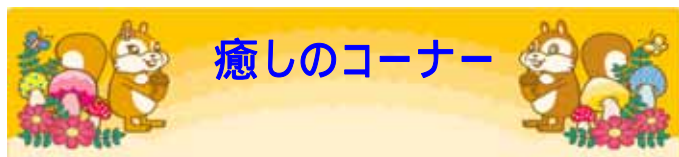
エイズ医療チーム新設及び要項の承認

エイズに関する高度な診療を提供し、地域におけるエイズ医療に関する先駆的・中核的役割を果たすとともに島根県におけるエイズ治療の中核的病院としての役割を円滑に推進するエイズ医療チームを新設。

併せて、島根大学医学部附属病院医療相談室患者相談部門業務に追加。

研修会・講演会・学会等のお知らせ

名 称	日時	場 所	対 象 者	演 題 等	講 師 名	主催 他
老人看護 CNS の可能性を探る	平成 24 年 1 月 21 日(土) 14:00 ~ 16:30	看護学科棟 1 階 N11 講義室	鳥根県内病院、 老人保健施設、 訪問看護ステーションの看護職員	シンポジウム「高齢者ケアのチェンジエージェント“老人看護 CNS”の可能性、 鼎談「しまねで老人看護 CNS をいかに育成・支援・活用するか」	吉村 浩美(聖隷三方原病院・総看護部長) 水野 敏子(東京女子医科大学大学院・教授) 吉岡 佐知子(松江市立病院・老人看護 CNS)	看護学科
2011 年度 鳥根大学がん医療従事者研修会	平成 24 年 1 月 25 日(水) 18:00 ~ 19:30	臨床講義棟 2 階 臨床大講堂	がん医療にかかわる全ての医療従事者	「がん医療におけるコミュニケーション」	内富 庸介(岡山大学大学院歯薬学総合研究科生体制御科学専攻 脳神経制御学講座(精神神経病態学)教授)	鳥根大学
2011 年度 鳥根大学がん医療従事者研修会	平成 24 年 1 月 31 日(火) 18:00 ~ 19:30	臨床講義棟 1 階 臨床小講堂	がん医療にかかわる全ての医療従事者	「がん医療と緩和のパラレルケア」	林 章敏(聖路加国際病院 緩和ケア科 医長)	鳥根大学
2011 年度 鳥根大学がん医療従事者研修会	平成 24 年 2 月 3 日(金) 18:00 ~ 19:30	臨床講義棟 2 階 臨床大講堂	全ての職員、医学部学生	「ヘリコバクテリウムが原因の腫瘍と予防対策」	岡田 裕之(岡山大学病院 光学診療部 教授)	鳥根大学
平成 23 年度第 4 回 医療安全のための研修会	平成 24 年 3 月 14 日(水) 17:45 ~ 19:00	臨床講義棟 2 階 臨床大講堂	病院職員	第一部「病院医学教育研究成果報告会」 「エイコサペンタエン酸(EPA)含有魚アランドし味噌汁の食道がん、頭頸部がん患者に対する栄養学的効果」 「本院の病院経営に資するインシデントレポートの解析に関する研究 2-インシデント・アクシデントによる(転倒・転落)による損失医療費の算出-」 「環境に配慮した医療サービスのあり方に関する研究」 第二部「医療安全のための研修」 「MR検査における医療安全」	川内 美喜子(臨床栄養部副部長) 廣瀬 昌博(病院医学教育センター長) 塩飽 邦憲(環境予防医学教授) 尾崎 史郎(放射線部 診療放射線技師「日本磁気共鳴専門技術者認定機構 MR専門技術者」)	医療安全管理委員会



我が家のペット

医療サービス課
米山幸男氏提供

ココ (ミックス 体重:8.5キロ 年齢:2歳)
好きなこと:散歩、シャンプー

★癒しのコーナーとして「わが家のペット」を紹介しています。
かわいいペットの写真と簡単な コメントを添えて編集委員会へお寄せください。

編集委員会からのお願い

病院ニュースは年4回発行予定です。
各診療科、各部門、事務部からの投稿をお待ちしております。取り上げてもらいたいニュース、PR、わが家のペットなどを編集委員会へお寄せください。

担当
医療サービス課 医療支援室(内線2068)

Email: [しろうさぎ専用アドレスです。 shirousag@med.shimane-u.ac.jp](mailto:shirousag@med.shimane-u.ac.jp)

(病院ニュースは、医学部ホームページの医学部掲示板にも掲載しております。)

働く、輝く、笑顔で暮らそう。



看護師・助産師 大募集!

皆様のご応募お待ちしております。
*病院見学、随時受付中!(土日・祝日の見学も可能)

新規採用・中途採用、随時受付中!

インターンシップのご案内

- 平成24年 ●2月 9日(木)~10日(金)
●2月13日(月)~14日(火)
●2月23日(木)~24日(金)
●3月 8日(木)~ 9日(金)
●3月22日(木)~23日(金)

*5月以降も毎月2~3回開催します。

応募方法等詳しくは下記HPで!

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

島根大学病院

検索

お問い合わせ先/医学部総務課人事担当

TEL.0853-20-2021

島根大学医学部附属病院

平成23年6月新病棟完成!
平成25年4月フルオープン!
既存病棟・外来棟全面改修

地域医療と先進医療が調和する大学病院

国立大学法人
島根大学 医学部附属病院